

式辞

大和三山が薄霞を纏い、春の息吹が感じられる今日の佳き日、金鷄会会長 井村守宏様、育友会会長 山村真数様の御臨席を賜り、奈良県立畝傍高等学校 第七十六回卒業証書授与式を挙行できますことはこの上ない喜びであり、心より感謝申し上げます。

卒業される三百五十八名の皆さん、誠におめでとうございませう。教職員、在校生とともに、皆さんの新しい門出を心よりお祝い申し上げます。

そして、御家族及び御関係の皆様、お子様の御卒業をお慶び申し上げます。また、これまで本校にお寄せいただきました、温かい御理解、御協力、御支援に対し、心より御礼申し上げます。

さて、卒業される皆さんの高校生活を振り返るとき、やはり新型コロナウイルス感染症の話題を避けて通ることはできません。入学当初、いや入学前から様々な影響を受け、畝傍高等学校での新生活に期待していた皆さんには不本意な日々であったことと思います。学校行事が縮小されただけでなく、マスク着用で友人の顔もよく分からず、楽しいはずの昼食も教室で黙食。対面で、話をしながらの食事でもできませんでした。部活動の大会やコンクールがなくなったことも、試合への出場辞退を余儀なくされたこともありました。

しかし、日常が当たり前のものでなく、いかに貴重であるかを知る皆さんは、青春の邪魔をされながらも、「堅忍 力行」の訓に沿って、様々な停滞も考える契機と前向きに捉え、一つ一つの機会を大切にし、よりよいものにしよう、精一杯楽しもうとする努力を惜しまず、三年間を輝かしいものに磨き上げたことは誰もが知るところです。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが五類となってからは、私も皆さんと親しく話ができる機会が増え、部活動の試合やコンクールでの懸命な姿、学校行事での輝きはもちろん、受験の時期に自習している真剣な様子も間近に見ることができましたが、いずれも尊く美しいものでした。

皆さんが、伝統ある畝傍高等学校の歴史に残した足跡の中で、後々まで語られるであろうものの一つに、花火の打ち上げがあります。自分達も不利益を被りながら、高校生活でよいことの少なかった先輩達にエールを送りたいと、生徒会を中心に企画し、予算のこと、近隣住民の皆様のお理解をいただくことなど、様々な困難を乗り越えて実現に漕ぎ着けた花火が夜空を彩る様は忘れられません。中心となった皆さんはもちろん、それを支持し、協力する、優しく賢い皆さんがあつてこそ、この企画が多くの人の心を動かすものになったのだと思います。校歌にも謳われる「自治の精神」を大切にし、自分達のことは自分達でよく考え、よく話し合い、よく行動する、本校の卒業生に相応しい皆さんを誇りに思っています。

しかし、旅支度を終え、学び舎を後にする皆さんの行く先にある道は、必ずしも平坦なものではありません。また、旅先に何が待ち受けているか、正確には誰にも分かりません。今もひとたび外に目を向ければ、災害や紛争は絶えず、地球や人類は深刻なリスクに見舞われており、しかもそれらの惨状が、いとも簡単に、ともすればリアリティを欠いたまま、手元のスマートフォンに映像として届けられてしまいます。これらを正しく理解し、正しい判断を行うには、正確な知識と豊かな想像力が必要です。

畝傍高等学校での三年間で、皆さんは多くの知識、換言すれば、人生を歩いていくために必要な道具を身に帯びたことと思います。しかし、その道具は、そのままではすべての課題に向き合うことはできません。持っている道具で、想定外の壁を破るための新しい道具を生み出すことが必要となります。新しい道具を作ることができなくても、手持ちの道具で何とかしようと工夫するしなやかさやたくましさ、へこたれない気持ち、いよいよどうにもならないときに周囲に助けてもらえる人間性やコミュニケーション力も必要でしょう。

人との距離を取ることを求められ、それに慣れてしまった私達ですが、だからこそ、改めて気付かされ実感した人とのつながりの価値を大切にしなければなりません。人はそれぞれ異なり、社会に出ればより多様な人々と出会うこととなります。互いの意図を正しく伝えることは、年齢や考え方、能力が近い、均質な集団で過ごした高校時代よりも格段に難しくなるでしょう。しかし私達には、他者に共感し、諦めずに対話をする姿勢がどうしても必要です。

このような時代にあって、その持てる力を発揮することが期待される皆さんには、儒教の基本思想を示した「四書」に数えられる『大学』の冒頭を、心に留めてほしいと思います。曰く、「大学の道は、明德を明らかにするに在り、民を親たにするに在り、至善に止まるに在り」。大いなる学問の道は、人が生まれながらに天から与えられている徳を明らかにすることが目的であり、それだけでなく、徳を備えていながら気付いていない周囲の進歩を後押しすることにより、そして校訓にもある「至善」、つまり最高の善の境地にとどまり、継続し続けることにある、と。

皆さんにはそれぞれに与えられた才能があります。才能に恵まれた者の責任として、その才能を明らかにし、この上なく正しい心でそれを生かして社会に貢献することが求められます。皆さんの中には、才能に十分気付いていない人もいるかもしれません。まだ明らかになっていない才能が隠れているかもしれません。今はまだ何者でもなくても、一人一人に、果たすべき使命が必ずあります。皆さんの活躍するステージは世界です。それぞれの立場で積極的に世界と関わり、恐れず怯まず行動してください。時代を予測不能と嘆くのではなく、予測がつかないから希望がもてるのだと思ってほしいのです。

さて、名残は尽きませんが、皆さんを見送るときが近付いてきました。

皆さんが人の可能性を信じ、共感と対話の努力を怠らずに道を切り拓き、畝傍高等学校卒業生としての誇りを胸に、本校の理想と発展を託された校章、金鵝のごとく大空を駆け、それぞれの道の牽引者となられることを祈念し、式辞といたします。

令和六年 三月 一日

奈良県立畝傍高等学校

校長 大石 健一